

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570900369		
法人名	医療法人社団 村重医院		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山口県山陽小野田市大字有帆字真土535番118		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町受理日	平成23年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の関わりにおいて決めごとを作らず、利用者の状況に合わせ、利用者の持っている能力を活かしながら家庭的な楽しい雰囲気作りを行っている。また、利用者同士が仲が良く支え合う信頼関係が培えている。重度化した利用者に残存機能や潜在機能を発揮できる様に働きかけ、持っている能力を引き出す支援を行っている。利用者が家族との関係を深める為、誕生日会やイベント等には必ず連絡をとり、参加の呼び掛けを行っている。地域の子供会や公民館との交流またボランティア等の地域支援を活用し利用者が地域の方とふれ合える機会作りにも努力している。協力医院との連携は医師が週4回巡回し利用者の日常の様子観察を行い緊急時に速やかに対応できるようにしている。また24時間体制で相談・受け入れ体制が図れている。10代から60代の男性や女性の職員が勤務し、職員の年齢や特質を活かした支援が行われている。AEDの設置緊急ステーションとして認可されており地域の方の必要にも応えられるようにしている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年10月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いや家族の意向の把握に努められ、本人の気持ちを大切にされた上で、一人ひとりの出来ること、出来ないこと、したいことを具体的に検討され、利用者が生き生きと張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにいる工夫をしておられます。家族の来訪時には介護記録を見てもらって、利用者の生活状況等を詳しく説明し、家族と話し合っておられ、本人や家族の気持ちにそったケアを心がけておられます。家族からの相談や苦情、要望等は、いつでも聞けるようにどんな些細なことで話せる雰囲気づくりに配慮しておられ、相談も多くあり、その都度丁寧に対応されています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	こもれび独自の運営の理念を毎朝職員全員で唱和する事で、理念に基づく共通認識を培っている。また、ミーティング時に理念の実践に向けての取り組みを話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を毎朝職員全員で唱和し、共有している。ミーティング時にも実践についての話し合いをしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方との挨拶はもちろん、地域の子供会の廃品回収や河川清掃に参加している、またホーム内の花壇や畑の草取りを手伝って下さる方もおられ、日常的に挨拶やお礼を伝え、交流を図っている。	散歩時に挨拶を交わしたり、子供会の七夕飾りや地域の河川掃除に参加している。公園の草取りをしたり、地域の方に事業所の花壇や畑の草取りを手伝ってもらうなど地域の人々と交流している。また、自治会の総会で災害時の近隣の協力を依頼している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学は随時受け、見学時は利用者の生の姿を見て頂き、状況説明を行っている。また子供会との七夕飾りの製作等を通して子供や保護者に利用者とは触れ合う機会を持ち認知症の方の接し方などを説明し理解を頂いている。また、地域の方の訪問により認知症の人の理解や支援の方法について話し合っている。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価の意義についてミーティングや書面で意識統一を図り、1年間の業務内容を振り返るとともに、外部評価の結果も踏まえ反省、改善の努力をしている。	自己評価や外部評価の意義を理解し、業務内容を振り返り、ミーティングで自己評価を検討し、外部評価の結果を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には毎回異なる地域の方、ご家族に参加して頂くようにしており、評価への取り組み状況の説明やそこで出た貴重な意見やアドバイスを参考に利用者様に楽しんで頂けるよう取り組み、意見を参考に公民館祭りへの参加やボランティア慰問も取り入れました。	自治会長、民生委員、消防団員、地域包括支援センター職員、家族、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催し、状況報告、行事報告、災害時の対応等について意見交換をしている。	

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に来て頂いた市の担当者や市町担当者の家庭訪問また、介護申請の為に市役所へ出向いた際は担当者にホームの現状を伝えたり、ケアサービスのあり方・取り組み状況について話し合い、協力関係を築いている。	社会福祉課や高齢介護保険課に事業所の状況を伝えたり不明な点は相談するなど、あらゆる機会を捉えて積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に外に出られる環境であり、生命に危険を及ぼす事柄以外は身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。生命の危機が生じ、やむおえず拘束を必要とする場合(ベットの使用など)は家族に十分な説明を行い書面にて承諾を得て、期間も最小にとどめている。	マニュアルがあり、全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用時に本人と家族等には書面で説明している。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止関連法について学んでおり、レポート作成にて職員にも学ぶ機会を持ち、日頃より小さな傷や痣を注意深く観察し、毎日の申し送りでも報告し原因を確認している。また、精神的な虐待も見逃されないように注意している。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見人制度を必要とされている方はおられないが、管理者は権利擁護に関する研修を受けており職員も周知している。また、スタッフルームに資料を置きいつでも読まれるようになっている為、御家族より相談があった時には説明できるようになっている。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて契約書や重要事項説明書を全て音読し、事項ごとに補充の説明を加え、質問にも誠実に答え、丁寧に十分な説明を行い納得の上でサイン・捺印を頂いている。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より信頼関係を培えるように心の寄り添いを重視しており、不満・苦情や要望を見逃さずに対応している。また、苦情の受付は契約書に記載している他、玄関にも苦情受付体制を掲示しており、めやす箱も設置し苦情・相談などの際はマニュアルに沿って速やかに対応できるようになっている。	マニュアルがあり、苦情相談窓口や担当者、外部機関を明示し苦情処理手続きを定めている。日頃より信頼関係を培えるように、心の寄り添いを重視して、家族等の些細な意見や相談を聞く姿勢をとっており相談は多く処理手順に従い丁寧に対応している。	

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は回診時やミーティング参加時に職員の意見や要望・提案を聞き入れる機会を設け、必要時には職員からの聞き取りも行っている。管理者は毎月ミーティングを行い意見を言える場を作ると共に職員に運営に関する相談をする事で様々な意見を聞き取り、運営に反映させている。	管理者は毎月ミーティングを行い出た意見は話し合って運営者に報告したり、運営者は往診時やミーティング等で出た職員の意見や要望、提案を聞き入れる機会を設けて運営に反映させている。	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が急病の為、長期の病気療養後の復帰や結婚・妊娠時も働きたいとの職員の希望を優先して、働きやすい職場環境を整備し職員の要望に沿えるように努めている。また資格所得を勧めて向上心を持って働けるように努めている。		
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は法人内外の研修の情報を職員に回覧し希望の研修に参加できるように配慮している。独自の勉強会では必要に合わせた内容を取り上げ職員のスキルアップを図っている。	代表者は、内外研修の情報を職員に回覧し、希望の研修に参加できるように配慮している。勤務の一環として参加し全職員に復命している。事業所内でも勉強会を実施している。	
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の交流会には多数の職員が参加して情報の交換や交流を図っており、他グループホームの見学や訪問また、自施設への訪問・見学も受け入れて交流を図りサービスの向上に取り組むと共に自施設の良い点を再確認している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し不安や要望をご本人より聞き取ると共に、人生表・生活情報提供表・生育歴を作成して職員が情報を共有できるようにしている。じっくり寄り添い・傾聴し早い段階で信頼関係を築き、自分の思いを表出できる関係づくりを大切にしている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や十分な説明を必ず行い、不安や要望・疑問点などについて納得されるまで話し合い、今後も不安や要望・疑問点などについて知らせて頂くように伝え、日常の報告も行き連携を図りながら信頼関係づくりに努めている。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人・家族に入居前の生活を聞き取り、人生歴・生育歴など記入して頂くと共に十分に聞き取りを行いアセスメントする事で、本人に必要な支援を見極めてケア計画に取り入れて実践に活かしている。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、調理方法・洗濯物干し・洗濯畳みなどの日常生活の場面で人生の先輩より教わる事も多く、日々の暮らしの中から意思を尊重しながら職員と利用者が協力し、支えあう関係づくりを築いている。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がほのぼのとした雰囲気ですぐに食事介助に積極的に取り組まれ絆を大切にしておられる。家族がほぼ毎日、訪問されゲームなどを共に楽しまれておられる。訪問時の現状報告や連絡を密に取り、また遠方の家族には宿泊できるように説明して宿泊して頂き、さらに行事には全家族に連絡し関わりを持たれるように勧め、共に利用者を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけて頂く、本人が作成した作品を手紙と共に送る他、馴染みの方に会えるように付き添いを行い、馴染みの場所にドライブに行き、本人が大切にしてきた馴染みの人や場所の関係が途切れない様に支援している。	利用者が家族に電話をしたり、利用者が作成した作品を手紙と共に送る他、アパートの知人を尋ねることに付き添ったり、馴染みの場所にドライブするなど、馴染みの人や場との関係が途切れないようにしている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好の関係を築けるように家事や食事時・入浴時・外出時などには、職員が声掛けの順番や席順の配慮をさりげなく行っている。利用者同士が車椅子を押されたり、他者の居室の掃除をされたりされて、利用者同士が関わり、支えあうことが出来る様に支援している。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれても担当者に情報提供を行い家族の相談にも応じている。また入院退居された方については、お見舞いに行き最後まで経過を見守っている。退居時には思い出のアルバムを渡し喜んで頂いている。退居後家族が来苑された時には感謝の言葉を伝え、契約が終了しても関係を断ち切らないように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を多く持ち些細な発言や動作から思いや意向を引き出すように努めている。また、家族からの情報提供により思いを知ることもあり、画一化されたケアにならないように一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。思いの表出が困難な場合でも表情やサインを見逃さず本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で利用者の思いや意向を把握し、言葉や行動を記録し画一化したケアにならないように一人ひとりの希望や意向の把握に努め、職員間で共有している。把握が困難な場合は本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族に生活歴や生活環境などの情報収集を行い、入居後も本人との会話や家族の面会時に生活歴を交えて会話することで、これまでの暮らしの把握に努めている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を観察し、気付き・見極め、個人記録・申し送り帳・ケアプランなどの記録物や申し送り・意見交換にて暮らしの現状の把握に努めている。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケアカンファレンスを行い気付きや本人・家族の希望を含んだ話し合いを行っている。また、プラン更新時は参加可能な方や家族に声掛けを行いケアマネ・担当でカンファレンスを行い状態説明・希望などを話し合い現状に即した介護計画を作成している。	月1回ケアカンファレンスを開催し職員の気づきや本人・家族の希望、主治医の意見などを反映した利用者本位の介護計画を作成している。3～6ヶ月ごとに見直しをしている。	

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAP方式を用いて日々の様子やケアプランの実践とその結果・気づき・その後の工夫・変化を個別記録に詳細に記入している。また、職員同士で情報を共有・意見交換を行いながらケアプランの実践や見直しに活かしている。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病気や家族の事情等により生じたニーズは迅速・臨機応変に対応している。また、本人や家族のニーズに対応しボランティアの受け入れや地域の催し物に参加し、苑内でお祭りなどを行い柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が敷地内の畑作りを手伝ってくださり、一緒に草取りを行って下さる。また、地域の公民館の催し物に館長さん自ら座席や駐車場の確保を行って下さり地域の協力を得て利用者に楽しい暮らしを続けられるように支援している。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医や受診について話し合い、希望に沿った医療を受けられるように支援している。また、かかりつけ医と当ホームが相談できる関係を築き、適切な医療を受けられるようになっている。	本人、家族の希望により協力医療機関をかかりつけ医としている。受診時は病状報告書を持参して同行している。かかりつけ医の週4回の往診があり、耳鼻科や眼科等の受診は家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるように支援している。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院より、看護師が朝の申し送りに参加し必要時は医師に報告し職員に状態説明・処置を行っている。また、定期受診日は看護師が同行して日常の状況の報告を行い連携を図っている。特変時は医師と連携して迅速かつ適切に対応できるように支援している。さらに週4回の医師の回診時は報告・相談を行っている。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医院との情報交換・相談は日常的に行えており、入退院時の協働は図れている。職員は交代でお見舞いに行き病院関係者や家族との関係作りに努めている。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて家族や医師・職員と家族の希望を聞き取り、段階に応じて本人や家族が医師との面談の機会を持つように支援し、当ホームで出来る事を説明しながら方針を打ち出し共有して、チームとして支援できるように取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を利用者や家族に明示し同意を得ている。状態の変化に応じて家族や医師、職員と充分検討しながらチームとして支援できるよう取り組んでいる。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告やひやりはっとの防止策を活用、職員は一人ひとりの心身状態を把握している。救急救命、AEDの訓練を年1回実施し、各事故のマニュアルも整備されミーティングに於いて再確認している。	ヒヤリはっや事故報告書に記入してミーティングで検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。年1回の救急救命訓練や事故防止マニュアルに従って事故発生時の訓練を定期的実施している。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定して年2回消防署の協力のもと避難訓練を行っている。また、災害時は自治会の総会において協力をお願いしており近隣の協力を得られるようになっている。また、マニュアルやミーティングで再確認している。	年2回昼・夜間を想定した火災・避難訓練を実施している。地域の人との協力については、自治会の総会で依頼し、協力を得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや寄り添い時の言葉使いについて朝礼やミーティングなどにより学ぶ機会を持ち実践に繋げている。言葉使いはゆっくり丁寧に一人ひとりの人格を尊重し、排便時や排尿時・入浴時・入眠時などはプライバシーを損ねないように配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、日常のケアにおいて、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように、ミーティング等で話し合い徹底している。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いに添えるように傾聴し、表情や行動を良く観察することで思いや希望を引き出すようにしている。また、自己決定できるように聞き取りや選択して頂く方法で希望の表出や自己決定の支援を行っている。		

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理に散歩やドライブ・お手伝いなどに職員の都合で誘ったりせず、入浴やお手伝いの順番も決めないで利用者の意思を尊重している。その人に合ったペースを大切にしている為、外出などの希望があった際は予定を変更して利用者の希望を優先している。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みに合った洋服を選択して頂いたり、選ぶことが困難な利用者には職員がその人の好みの服装選びをしている。鏡の前でお化粧や髭そり・整髪などが出来るように支援している。また、髪飾りやマニキュアなどを購入しておしゃれを楽しんで頂いている。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物作りや洗米・盛り付け・配膳・下善・食器洗いなどを職員と一緒にしている。また、食事介助が必要な利用者も職員と一緒に食事をとり会話を楽しみながら楽しく摂取している。さらに、重度化された利用者もフロアにて他者と共に食事を楽しんでいる。	昼食と夕食の副食は配食で、ご飯や汁物は事業所で調理している。洗米、盛りつけ、配膳、下膳、食器洗いなど職員と利用者が一緒にしている。誕生会での希望を聞いたり、外食に出かけたりと食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は記録より把握でき、不足分は補充するなどして適切に対応している。また、栄養士の立てた献立により栄養のバランスはとれている。嚥下状態に合わせてミキサー食・きざみ・嚥下補助食品を補充するなどの加工を行い、栄養摂取や水分確保の支援を行えている。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各自の歯ブラシを使用して口腔ケアと殺菌作用のあるお茶でうがいをして頂く。義歯は入れ歯専用洗浄剤にて洗浄し清潔を保っている。また、スポンジブラシで舌の手入れやトロミを付けたお茶の飲用などで口腔内の清潔保持に努めている。		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	重度化した利用者にも職員2人対応でトイレ介助し気持ち良く排泄出来るように支援している。また、尿意・便意のサインや排泄パターンを把握して、羞恥心に留意しながらトイレの声掛けや誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけをしてトイレでの排泄や自立に向けた支援している。	

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の食材は繊維を含む物が選ばれ、水分も1000ml/日以上摂取を目指し排泄表の記録より排泄を把握し、水分摂取方法を工夫して便秘の予防に努めている。また、廊下などを気軽に歩いて頂くことで便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間・順番を決めず、ゆったりとした楽しい雰囲気に入浴して頂けるように工夫している。また、重度化した利用者にはパステアを使用し、個々に応じた入浴の支援を行っている。	入浴は毎日可能で、午前10時から午後5時までの間に、利用者の希望に添うようゆっくりと入浴できるようにしている。パステアを使用したり、入浴を嫌がる場合には声かけや対応を工夫して支援している。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向のある寝付きの悪い方については、日中の関わりを多く持ち、夜はゆっくり入眠出来るように支援している。椅子でうたた寝をされておられる方には、ソファやベットに誘導しゆっくり休んで頂けるように支援している。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の病気や病歴を把握し、薬の目的や副作用・用量等を把握出来てから服薬介助や見守りを行っている。薬のセットから服薬まで違う職員3名が確認を行い、服用して頂いている。また、服用方法も一人ひとりの状態に合わせて粉砕・はちみつに混ぜるなどの対応をしている。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を活かし家事を継続する事で残存能力の維持を図っており、自分を役立たせる事で満足感にも繋げている。嗜好品・楽しみ事・気分転換も個々に合わせた関わりをしている。飼育しているペットの餌やりも習慣になり、餌を取りに行くことも楽しみ事になっている。	塗り絵、貼り絵、カラオケ、ドライブ、買い物、デイサービスの行事への参加、卵料理、配食、洗濯物干し、ペットの餌やり、洗濯物たたみなどで、楽しみごとや張り合い、気晴らしの支援をしている。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って外食やドライブ・買い物・カラオケボックス等に行っている。温泉などの外泊の希望時は家族の協力を得て、本人の希望が叶うように家族と協働して支援している。御寺や公共施設の呼びかけにより地域の催し事に気軽に出かけられるように支援している。	新年の三社参りや外食、散歩、買い物、ドライブ、花見、併設のデイサービスセンターに向くなど、利用者の希望にそって外出の支援をしている。	

グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持ってない事の不安や自由に好きな買い物が出来る事の重要性を理解しており、お金の管理を希望された場合は管理能力を見定め、自由に管理して頂いている。また、預かり金の出し入れも管理能力に応じて自由に出来るようになっている。		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや希望時は電話が出来るようになっている。便せんや切手を準備して、プライバシーを守りながら手紙のやり取りが出来るように支援している。また、毎月の職員のお便りに本人の手紙や写真を同封する支援も行っている。		
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・フロアー・廊下等に季節の花や装飾品が飾られ季節感を取り入れている。また、暖色の明りとカーテンの太陽の明りの調整を考慮して落ち着いた雰囲気作りに努めている。住宅地の中にあるが静かな環境で、苑内でも物音や職員の声も配慮している。また、フロアーや居室の空調・換気も配慮している。	共用空間は明るく季節の花や装飾品が飾られている。利用者の作品や絵画、行事の写真や飾り、ソファや椅子があり、調理の様子や外の景色が眺められ、生活観や季節感を感じることが出来る。のんびりと静かなときの流れが感じられ居心地よく過ごしている。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士の席の配置・2人掛けや3人掛けのソファの設置により思い思いに利用して頂き、畳みの利用も工夫して、時には作業の場になり、時には仮眠の場として自由に活用できるように工夫している。		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人や家族に馴染みの物を持ち込まれるように伝え、希望時はベットと畳みを選べるようになっている。仏壇等の持ち込みや信仰しておられる宗教に関する物も自由に持ち込まれるように配慮している。室内のレイアウトも本人の希望に添い、居心地良く過ごせるように工夫している。	利用者や家族に馴染みの物を持ち込まれるよう伝え、希望があればベットと畳を選べるようにしている。、仏壇も持ち込まれ、家族の写真や作品を飾られ居心地よく生活できるように配慮されている。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階建ての為、エレベーターと階段を利用者の機能に合わせて選択できるようになっている。自立した生活を送って頂けるように廊下・トイレ内に手すりが設置され、トイレは各ユニットに1ヶ所シルバーカーや車椅子の方も自立して使用できるように広くスペースを取っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム こもれび

作成日: 平成23年 2月 28日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	65	日常的に地域との交流が図れているのは、限られた地域の方と限定されており利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、1番身近な自治体の方達や自治会内の子供達などに積極的な働きかけが必要である。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けるため、1番身近な町内の自治会・子供会の方達と馴染みの関係を構築する。	町内の子供会の行事に利用者が積極的に参加できるように援助し、参加を通じて子供達や父兄との交流を図る。こもれび主催の行事には、1番身近な地域との交流を図り利用者が地域とつながりを持ちながら暮らし続けられるように取り組む。	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。